

講義の談話におけるトピック・センテンスの聴解について  
A STUDY ON LISTENING COMPREHENSION OF  
TOPIC SENTENCES IN JAPANESE LECTURE DISCOURSE

渡辺 文生  
山形大学  
Fumio Watanabe  
Yamagata University

## 1. はじめに

本研究の目的は、学部留学生による講義の談話の聴解において、トピック・センテンスの理解度とそのトピック・センテンスが現れる談話の文脈との関連について考察することである。講義の談話の素材として、NHK カルチャーラジオの講義を用い、日本語上級クラスの受講生を対象に、講義を聴いたあとトピック・センテンスの内容に関する質問に対して日本語で書くというタスクの結果をデータとして用いる。

「留学生 30 万人計画」により日本の大学への留学生の大幅な増加が予定されている。学部の新入生として入学して来る留学生にしても、外国の大学から短期留学でやってくる留学生にしても、日本の大学で単位を履修しようとするためには、多くの場合日本語で行われる授業に出席しなければならない。初年度の授業の多くは講義形式の授業が多く、大学に入学したばかりの留学生は、90分に渡る長い講義を聞くことになる。このような状況を考えると、留学生の日本語による講義の理解をどのように支援するかは、大学における日本語教育の大きな課題と言えよう。

## 2. 研究の背景と課題

大学の講義を対象とした受講者の理解のあり方についての先行研究としては、西條 (2007)、佐久間 (2010, 2014, 2015) などがある。これら一連の研究では、実際の 90 分に渡る大学講義の構造分析と日本語母語話者および留学生による講義理解のデータ収集・分析が継続的に行われている。講義の談話におけるトピック・センテンスに関連しては、話段で述べる内容全体の要約などを行う概要文タイプの文で多く用いられる文型についての知見が得られている (佐久間 2010)。また、渡辺 (2014) は、講義受講者が講義ノートを参照しながら講義内容を再生したインタビュー・データを分析し、インタビューでの講義内容に関する説明の仕方には、受講ノートにおいてどの情報が重要な情報であるかというメタ情報の有無が関わっていることを指摘した。

上記の研究における研究方法上の課題としては、データが膨大で分析に時間がかかるため、分析する講義の種類が制限される点、そして、受講者の理解データとしては、受講者の自由再生で分かったことを書いたり話したりしてもらったものを収集しているが、理解された情報がすべて再生されているとは限らないという問題点が挙げられる。そこで、本研究では、ラジオ講義を素材に用いることに

よって、所要時間は短くとも多様な素材による調査を行い、講義のポイントとなる情報を理解したかどうかを質問タスクによって尋ねるという方法を用いることにした。

本研究のリサーチ・クエスチョンは、「トピック・センテンスに関するどのような文脈的要素が、受講者の講義の理解に影響するのか？」ということになる。特に、トピック・センテンスの内容に関するメタ情報の位置関係に注目する。たとえば、「重要な点は、…ということです。」という言い方（メタ情報先行型）と、「…ということが、重要な点です。」という言い方（メタ情報後続型）を比べてみると、前者の言い方の方が、「これから述べることは重要だ」という談話の内容に関するメタ情報を前もって提示しているため、理解しやすい、または、ノートなどの記録に残しやすいのではないかと予測する。母語話者であれば、この2つのパターンの差は大きな影響を与えないかもしれないが、非母語話者では影響があるのではないかという仮説をもとに調査結果を検討していく。

### 3. 調査の概要

調査の概要は以下のとおりである。被調査者は、日本の大学に留学している非母語話者で、上級の日本語クラスを受講している学生である。調査の手順としては、最初に、何についての講義であるか、そして、講義の理解に最低限必要と思われる語彙リストを提示する。その際、質問の筆記タスクを著しく容易にするような語彙は提示しないように配慮した。講義のリスニング中は、あとのタスクのためにノートを取るようにと指示した。被調査者は、あとでどのような質問が出されるか分からない状態でリスニングを行い、リスニング後に質問の用紙が配布され筆記タスクを行った。

調査期間：2015年5月～7月

被調査者：日本語上級クラス受講者19名（母語の内訳：中国語16名、朝鮮語・オランダ語・ポーランド語各1名）

調査の手順

1. 講義のシリーズ名および理解に必要な語彙リストの提示
2. 講義のリスニング（約30分のラジオ講義の一部を取り出して用いた）
3. 筆記タスクの質問に対する回答記入

トピック・センテンスについては、単に「段落あるいは話段の話題、すなわち、トピックを提示する文」というとらえかたもあるが、ここでは、メイナード（2003）による「いわゆるトピックのみならず、その段落で何を述べるかという要旨・要点・まとめをも含むもの（メイナード2003:235）」というトピック・センテンスの定義に従い、話段の話題に関するまとめを含む文をトピック・センテンスと見なすことにする。そのため、筆記タスクの質問は、話段の話題（トピック）に関する叙述（コメント）を答えとして要求する形式を取るものとした。

講義素材に用いたNHKカルチャーラジオとは、NHKラジオ第2放送で放送されている1回30分のラジオ講義プログラムで、1シリーズ13回の講義から構

成されている。講義の談話は、聴衆が誰もいないスタジオで収録されているのではなく、実際に聴衆を前にして行われた講義を収録したものである（渡辺 2015）。

講義素材	所要時間	質問の番号
「白雪姫」	5分 51秒	問1 問2 問3
「メルヘンとは何か」	7分 49秒	問4 問5
「ロータス効果」	4分 14秒	問6
「フレンチ・パラドックス」	3分 42秒	問7
「コロンブスの目的」	5分 17秒	問8

本研究の調査に用いた講義素材は上記のとおりである。それぞれ30分のラジオ講義から、4～8分程度で内容的にまとまりのある部分を抽出して調査のための素材とした。トピック・センテンスの叙述内容を問う質問は8問あるが、それらの問の番号と講義素材との対応関係も上に記載のとおりである。それぞれの問の内容については、次の節で取りあげる。

#### 4. 調査の結果と考察

以下では、本研究の筆記タスクの調査から得られた傾向をもとに、調査結果の報告と考察を行っていく。筆記タスクの質問文、その答えとそれに関連する講義の話段、および被調査者による回答結果を示していくが、講義の話段において、ゴシック体の下線部はトピック・センテンスを、明朝体の下線部は話段の話題を表す。

##### 4.1 メタ情報の位置による講義理解への影響

第2節で、メタ情報が先行するか後続するかということが理解に影響を与えるのではないかと仮説を述べたが、調査の結果、はっきりとした影響は見られなかった。その結果に関わるのは、問2と問3である。

問2 白雪姫の3つある特徴のうちの1番目はどのようなものか？

答え：非常な美人であること。

でー白雪姫の特徴は三つあると思うんです。えーそれを順番にお話ししていきたいと思いますが、**第一は、非常な美人であることです**。彼女は、魔法の鏡によって、「国中で一番美しい人」と、呼ばれます。その美しさは、死んでからも保持されて、ガラスの棺に納められた、白雪姫の死骸を見た王子が、そのあまりもの、美しさに心を惹かれ、「この棺を自分に譲ってくれ」、とまで言うんですから、並はずれた美しさを持っていることがよくお分かり、いただけると、いうものです。

問2の回答結果 (n=18)

同一表現での回答	6人
内容的に合っている回答	9人

問3 白雪姫の2番目の特徴はどのようなものか？

答え：概観だけでなく①、心も美しいこと②。

しかしあの一美人であるだけでは、それほど人の関心を惹きません。メルヘンの法則にもとづけば、外観の美しい白雪姫は、心も美しくなければなりません。外観だけでなく、心も美しい。これが、白雪姫の第二の特徴です。彼女は気立てがよくて、素直で、無垢で、他人を疑うということを知りません。そのためお妃が、物売りに変装して、七人の小人の家に隠れている白雪姫に、きれいな絹糸の紐や、毒の櫛や、毒リンゴを見せると、白雪姫は簡単に騙されてしまいます。心がこんなに「純白」で、世の中の穢れや恐ろしさを知らない子がいたら、誰でもその子を守ってやりたいと思うでしょう。実際、お妃に、あの「白雪姫を森のなかに連れ出し、殺してしまえ」、というふうに、命令された狩人もそうでした。グリム童話では、狩人は殺そうとは思ったものの、あまりにも美しい白雪姫を殺す気にはなれず、逃がしてやったというふうに記されています。しかし、あまりにも美しかったのは、彼女の容姿だけではなく、彼女の心でも、あったんじゃないでしょうか。

問3の回答結果 (n=18)

①、②ともに回答	6人
②のみ回答	9人

問2は、「白雪姫の特徴の第一は、非情な美人であることだ」というメタ情報先行型の説明をもとにしているのに対し、問3は、「外見だけでなく心も美しいということが白雪姫の第二の特徴だ。」というメタ情報後続型の説明をもとにしている。結果は、どちらも正解が6人、概ね正解が9人であった。結果的に、メタ情報が先行するか後続するかという違いは影響を与えなかったが、その要因としては、トピック・センテンスの叙述内容に関わる表現がトピック・センテンスのあとの文脈に繰り返し用いられているという点が指摘できる。

問2の場合も問3の場合も、講義の話段を見ると、話段の冒頭部にトピック・センテンスが位置し、そのあとにそれをサポートする文脈が展開している。問2では、そこに「美しい人」「美しさ」などトピック・センテンスの叙述内容である「非常な美人であること」と類似の内容を持つ表現が反復されている。問3でも、「心がこんなに『純白』」「美しかったのは…彼女の心」などと、トピック・センテンスの「心も美しいこと」という叙述内容が繰り返されている。このような叙述内容の繰り返しによって、トピック・センテンスにおけるメタ情報の位置の違いによる影響が減衰されたものと考えられる。

#### 4.2 トピック・センテンスの叙述内容をサポートする文脈の有無の影響

本研究の調査から得られた2点目の傾向は、「トピック・センテンスの内容をサポートする文脈が近くにないと理解しにくい」という点である。たとえば、問

8の回答としては、下の答えにある①～③の3点が必要だが、3点すべてを備える回答は1人しかいなかった。

問8 コロンブスが西に向かって出航した2つの目的とは、それぞれどのようなことか？

答え：1つ目の目的は、イスラム教徒が支配していない土地を通って①インドに達すること②。そして、2つ目の目的は、『東方見聞録』に出てくるジパングを探し当てること③であった。

最初はですね、コロンブスが、アメリカ大陸に行って、何をして、何を残したのかということをお話しておきたいと思います。ご承知のように、コロンブスは、1492年8月3日に、スペインのバロスという港を出て東に向かいます。そしてサンタ・マリア号、ピンタ号ニーニャ号と、三隻の船で90人の乗組員で、向かいます。10月の12日に、バハマ諸島にあるサン・サルバドル島という島に着きました。これをもって、えー昔は、コロンブスの新大陸の発見と言っておりましたが、現代では、発見と言わないで、むしろ、コロンブスが、あー始めて新大陸に到達した日だと。そういうふうにとるようでございます。いっただいいーコロンブスがですね、何のために結果的にはあー西へ向かって、アメリカに行くことになったのかと。目的は二つあったんです。一つは、イスラム教徒が支配していない土地を通って、インドに、達すること。それから二つ目は、東方見聞録に出てくる、ジパングを探し当てること。この二つの目的を持って、コロンブスは、西へ向かって、船出を、いたしました。

問8の回答結果 (n=19)

①が書かれた回答	2人
②が書かれた回答	12人
③が書かれた回答	6人
①～③すべてが書かれた回答	1人

講義の談話を見ると、「目的は二つあった」と先に提示されてから、それぞれの目的の内容が説明されている。その点では、メタ情報先行型のトピック・センテンスととらえられるのだが、問2の結果とは異なり正答率は非常に低かった。その要因として考えられることは、トピック・センテンスの叙述内容をサポートし説明する文脈が、近い位置に現れていないという点である。この講義の話段の前半は、コロンブスの出航の目的を説明する内容ではないし、このあとに続く話段も、直接①～③の内容を説明するものではなかった。そのため、トピック・センテンスの前後に、その叙述内容に関連する語句の反復もなく、被調査者にとっては、理解することが困難であったと思われる。

#### 4.3 用語を説明するタイプの話段

調査から得られた傾向の3点目としては、「専門的な用語、あるいは、概念を説明するタイプの話段では、用語が話題として話段の冒頭に提示されている方が理解しやすい」ということが挙げられる。この点に関連するのは、問7と問8で、それぞれ「フレンチ・パラドックス」「ロータス効果」という用語の説明を行っている講義の話段に関するものである。

問7 「フレンチ・パラドックス」とはどのようなことか？

答え：フランス人<sup>①</sup>は、脂肪の摂取量が多いにもかかわらず<sup>②</sup>、心臓病の死亡率が低い<sup>③</sup>ということ

「フレンチ・パラドックス」っていうことばがあります。でフランス料理って思い出してください。脂ののったお肉、でそれにバターやチーズっていうのをソースとしてかけると、これは脂肪がいっぱいです、ですから、フランス人が、毎日そんなん食べてるとは思いませんが、やっぱりフランス人の、脂肪摂取量っていうのは多いんです。で脂肪の摂取量が多いと、コレステロールの値が上がって、動脈硬化になって、心臓病で亡くなる人が多くなるっていうのが、世界の常識です。ですから、脂肪をたっぷり食べてるフランスの人っていうのは、心臓病で亡くなる人の割合が高いのではないのかと思うのが、世間の常識なんです。ところが、フランスの心臓病による死の割合っていうのは、イギリス、ドイツ、アメリカに比べて、すごい低いんです。なんでそんな、脂肪たくさんとってる国の人が、心臓病で亡くならないのかっていうのが、不思議で、フランスの大逆説と言われ、「フレンチ・パラドックス」と、世界から不思議がられて、きたんです。

問7の回答結果 (n=18)

①が書かれた回答	12人
②が書かれた回答	14人
③が書かれた回答	14人
①～③すべてが書かれた回答	12人

問6 「ロータス効果」とはどのような効果なのか？

答え：ハスの葉のデコボコ構造によって<sup>①</sup>水を弾き<sup>②</sup>表面をきれいに保つ<sup>③</sup>効果。

で、その代表が、「ご飯がひっつかないしゃもじ」っていうのがあります。これが、ヒントになったのは、ハスの葉っぱなんです。で、ハスの葉っぱ、経験あったら思い出してください。水滴がポンと落ちたら、クルクルと丸い水滴になって、コロコロと転げていってしまいます。で、どうして、ハスの葉っぱっていうのはあんな水を弾いて、丸くなるのかって、考えると、ま普通に出てくる答えは、そら葉っぱの表面が、ツルツルやから、あんななるんだろうと、いうのが、思われがちなんです。実は

顕微鏡で見ると、ハスの葉っぱの表面ていうのは、ツルツルじゃないんです。小さなコブがいっぱい並んだデコボコ構造をしているんです。そのデコボコ構造のおかげで、水は、水滴状態になって、転がっていくと、だから、葉っぱの表面にある、泥や虫なんかを、コロコロっと転がりながら全部取ってくれますから、ハスの葉っぱって、いつでも、きれいなんです。勝手に汚れが取れる、というものです。ですから、それを、「ハスの葉効果」って呼んだり、あるいは、ハスの英語名はロータスですから、「ロータス効果」って呼んでいます。

問6の回答結果 (n=16)

①が書かれた回答	12人
②が書かれた回答	12人
③が書かれた回答	5人
①～③すべてが書かれた回答	3人

問7と問8を比較すると、問7の講義の話段では、「フレンチ・パラドックス」という話題を話段の冒頭で提示し、話段の終わりに位置するトピック・センテンスにも話題が繰り返し現れているが、被調査者の3分の2が正解している。それに対して、問8の講義の話段では、「ロータス効果」「ハスの葉効果」という用語は、その効果を説明するトピック・センテンスのあとに現れており、正解者数は被調査者の5分の1以下の3人に過ぎなかった。

トピック・センテンスの叙述内容を総称する用語が先行して提示されている場合の方が、あとから提示される場合と比べて理解されやすいということが見て取れる。「フレンチ・パラドックス」「ロータス効果」という用語が、談話にとって重要な単語であるというメタ情報を担うと見なせば、メタ情報先行型の方が後続型よりも理解しやすいということを示す一つの事例と考えることができる。

#### 4.4 話段におけるトピック・センテンスの位置の影響

調査から得られた傾向の4点目として、話段におけるトピック・センテンスの位置について取りあげる。問5は、「伝説」に関する特徴と「メルヘン」に関する特徴を、それぞれの話段から抽出するという問になっているが、「伝説」に関する話段と「メルヘン」に関する話段では、トピック・センテンスとその内容をサポートする文脈との位置関係が逆になっている。

問5 「伝説」と「メルヘン」の違いは何か？

答え：伝説では物語の「時」と「所」が明確で主人公の名前もはっきりと記されていない<sup>①</sup>が、メルヘンでは「時」と「所」と「名前」がない<sup>②</sup>。

それでは、伝説とメルヘンの違いはどこにあるのでしょうか。伝説ではあの一、まいつもとは言いませんが、だいたいにおいて、物語の「時」と「所」が明確です。そして主人公の名前も、はっきりと記されていることが多いんです。例をお話しますと、グリム伝説集に次のような話が入って

います。「1635年頃の話だが、ザールフェルトの近辺に住む、ハンス・クレーベルという名の農夫が、雑木林で木を伐っていた。時刻は午（ひる）過ぎであった。突然小さな苔女が歩み寄ってきて農夫に言った。」といった調子です。これは1635年、ザールフェルト、こういう時と所が書いてありますし、ハンス・クレーベルという主人公の名前も記されています。

それに対してメルヘンは、「昔あるところに、おじいさんとおばあさんが暮らしていました。おじいさんは山に柴刈りに、おばあさんは川に洗濯に行きました。」といった調子で始まります。「昔あるところに」英語では *Once upon a time*. ドイツ語では *Es war einmal*. ですが、ここでは「時」も「所」も分かりません。そして登場人物は、「おじいさん」や「おばあさん」であり、名前は不明です。主人公の「桃太郎」も愛称であり、本当の名前は知らされていません。グリム童話でも、「白雪姫」「赤ずきん」「シンデレラ」、シンデレラはま「灰かぶり」とも言いますが、「ラプンツェル」、これらはすべて愛称であり、本名ではありません。そう言うと皆さんの中には「ヘンゼルとグレーテル」には名前がついてるじゃないかと言われる方がいるかもしれませんが、このメルヘンはもともと「兄と妹」という題だったんですね。「兄と妹」では親しみが持てないために、グリム兄弟はこのメルヘンに「ヘンゼルとグレーテル」という名前を与えました。まこれはあの極めてありふれた名前です、日本で言うと「太郎と花子」のような一般的な名前、男女を区別するに過ぎないような、名前です。

それでは、なぜメルヘンには「時」と「所」と「名前」がないのでしょうか。

#### 問5の回答結果 (n=18)

①が書かれた回答	8人
②が書かれた回答	13人
①、②ともに書かれた回答	8人

「伝説」に関するトピック・センテンスは話段の冒頭に現れて、「メルヘン」の話段に関するまとめは、後続話段の話題として現れているが、「メルヘン」に関する話段の方が高い正答率を示した。「伝説」「メルヘン」どちらの話段も、具体例を示しながら説明しており、トピック・センテンスの叙述内容に関する表現の繰り返しも同様に見られるが、トピック・センテンスがあとから現れる話段の方が正答率が高かった。

トピック・センテンスとそれをサポートする文脈との位置関係という点で、これまで見た筆記タスクの質問を振り返ると、問2、問3はトピック・センテンスが先行するタイプの話段で、それぞれ約8割の被調査者が正解または概ね正解の回答を書いていた。問6、問7については、ともにトピック・センテンスが話段の終わりに現れていたが、用語が提示される位置の影響で正答率に違いが見られた。問5の結果のみにもとづけば、「トピック・センテンスがあとに現れる方が理解しやすい」と言えるが、ほかの問の回答結果も総合して考えると、トピック

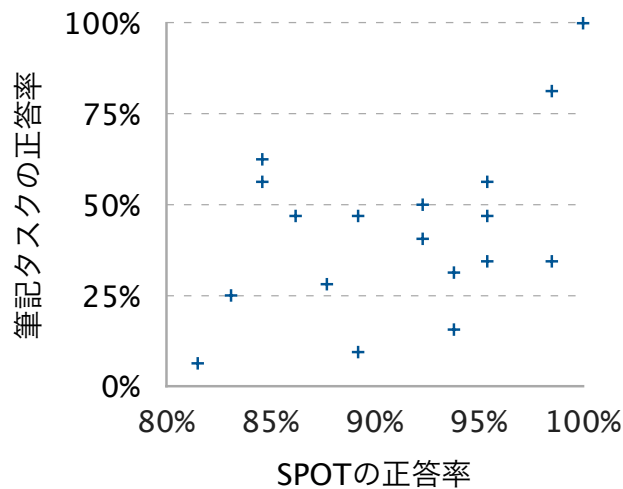


ク・センテンスの位置の影響については、様々なほかの要因と連動していることが推測され、確定的な傾向は見出せなかった。

#### 4.5 SPOT の成績との関連

本研究の筆記タスクの正答率と、SPOT の正答率との相関関係をグラフにまとめた。SPOT は、一連の調査を行う前に実施した。使用したのは、SPOT のバージョンのうち難易度の高い方の Version A である。SPOT Version A の 65 問に対して、最高得点が 65 点満点、最低得点は 55 点 (84.6%) であった。

グラフ 1 SPOT と本調査結果との相関



SPOT で最高得点だった非調査者は、本研究の調査においても正答率が 1 位だった。また、SPOT の最低得点であった被調査者は、調査の正答率も一番低かった。グラフからは、2つの正答率のあいだにゆるい相関が見られるが、中間層ではバラツキが大きいということが分かる。SPOT は、総合的な言語運用力を測定できるとされているが (小林ほか 1996)、講義の聴解には、SPOT の測定ではカバーできない要因があることがうかがえる。

#### 5. おわりに

以上、講義の談話におけるトピック・センテンスの理解度とそのトピック・センテンスが現れる談話の文脈との関連について考察を行った。トピック・センテンスの叙述内容に関するメタ情報の位置関係が理解度に影響するのではないかという仮説を立てたが、今回の調査からは、明確に影響するという結果は得られなかった。しかし、用語を説明するような話段においては、用語がトピック・センテンスに先行して提示される方が正答率が高いという結果であった。また、トピック・センテンスの内容をサポートする文脈が当該の話段にない場合は、理解しにくいという傾向も見られた。トピック・センテンスとそれをサポートする文脈との位置関係の影響については、トピック・センテンスがあとに現れる方が理解しやすいという傾向を示す質問もあったが、関連語句の反復など様々な要因と連

動していることが示唆された。今後とも、多様な講義素材を用いて調査を継続し、留学生の講義理解の支援に生かせる成果を出せるようにしたい。

この研究は、平成27年度～29年度科学研究費基盤研究（C）「学部留学生の講義聴解力を伸ばすための談話表現の研究」（課題番号：15K02629 研究代表者：渡辺文生）の成果の一部である。

#### 参考文献

- 小林典子・フォード丹羽順子・山元啓史(1996)「日本語能力の新しい測定法『SPOT』」『世界の日本語教育』6, 201-218
- 西條美紀（編）（2007）『学際的アプローチによる大学生の講義理解能力育成のためのカリキュラム開発』294p.（平成16-18年度科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究（C）研究代表者:西條美紀）
- 佐久間まゆみ（編）（2010）『講義の談話の表現と理解』くろしお出版
- 佐久間まゆみ（編）（2014）『大学学部留学生のための講義の談話に関する研究』（平成23～25年度科学研究費補助金研究成果報告書 基盤研究（B）研究代表者：佐久間まゆみ）
- 佐久間まゆみ（編）（2015）『大学学部留学生による講義理解の表現類型に関する研究』（2014年度特定課題研究助成費（A）（一般助成）研究成果報告書 研究代表者：佐久間まゆみ）早稲田大学
- メイナード，泉子・K（2003）「談話分析の対照研究」佐久間まゆみ（編）『朝倉日本語講座7 文章・談話』227-249 朝倉書店
- 渡辺文生（2014）「講義のテーマに基づく受講者インタビュー談話の分析」石黒圭（編）『「大学学部留学生のための講義の談話に関する研究」論文集』134-144
- 渡辺文生（2015）「論説的な文章・談話における文末表現の使われ方について」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三（編）『文章・談話研究と日本語教育の接点』179-199 くろしお出版